

◆団体基本情報

No.	8	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市医療センター		
所在地	〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷五丁目22-1						
電話番号	022-252-1111		FAX番号	022-252-0454		所管部局	健康福祉局 健康政策課
団体ホームページ	http://www.openhp.or.jp/						
代表者職氏名	理事長 中川 洋			設立年月日	昭和49年12月5日		
資本金・基本財産	10,000 千円		市の出捐額(割合)	6,000 千円 (60.0 %)			
設立目的	仙台市及びその周辺の地域住民の公衆衛生の向上と包括医療の推進を図り、もって住民の健康と福祉の増進に寄与すること。						
事業概要	公衆衛生に関する指導相談事業。医学及び医療の向上に関する調査研究。オープンシステム病院、診療所及び介護老人保健施設の開設による公益的医業。生活習慣病の検診事業。介護保険法による各種サービス事業。その他この法人の目的達成に必要な事業。						
評価対象決算期	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日						

◆人員等の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	76.0 歳	77.0 歳	78.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,125 千円	6,136 千円	6,260 千円
④職員数	779 人	805 人	816 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	4 人	4 人	4 人
⑤職員平均年齢	39.7 歳	40.2 歳	40.2 歳
⑥職員平均年間給与	5,654 千円	5,588 千円	5,627 千円

◆主要財務データ

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①当期経常増減額	△ 316,063 千円	△ 379,287 千円	△ 142,106 千円
②当期経常外増減額	△ 945,951 千円	60,793 千円	△ 1,743 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 1,262,136 千円	△ 318,616 千円	△ 143,971 千円
④一般正味財産期末残高	3,083,993 千円	2,765,377 千円	2,621,406 千円
⑤指定正味財産期末残高	3,777,793 千円	3,515,914 千円	3,421,400 千円
⑥正味財産期末残高	6,861,786 千円	6,281,291 千円	6,042,806 千円
⑦長期借入金残高	10,030,700 千円	9,493,300 千円	8,955,900 千円

◆市の財政的関与

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①市からの補助金	640,852 千円	639,294 千円	701,548 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	2,092 千円	81,353 千円
③市に対する収入依存度	6.35 %	6.15 %	7.50 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和2年度事業費
仙台オープン病院	オープンシステム（開放型病院）による登録医との共同診療（地域医療支援病院）。人間ドックや脳検診等、市町村・事業所を対象とした大腸がん検診を実施。（人間ドック・健診施設機能評価認定） 広域仙台圏救急医療システムのコントロールタワーとして二次救急を中心とした救急事業（365日24時間対応） 管理型研修指定病院としての研修医受入。地域医療推進事業（市民医学講座・地域健康講座の開催、健康教育パンフレット発行）。看護学生に対する就学資金貸付事業。	9,626,120 千円
茂庭台診療所	内科・小児科の外来診療	23,767 千円
茂庭台豊齢ホーム	介護保険制度の施設入所の他、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーションを実施	878,085 千円
居宅支援センター豊齢	介護保険制度の居宅介護支援事業所としてケアプラン作成の実施	11,506 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>【病院】特に北部を中心とした広域仙台圏救急医療システムのコントロールタワーとして、二次救急を中心に積極的に医療を行ってきた。また、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療体制の確保に努め、仙台市医療圏での中心的な役割を担った。</p> <p>【茂庭】地域住民の健康と福祉の増進に寄与すべく、介護保険制度・認知症介護・栄養管理・リハビリテーション等について、地域健康セミナーを開催していたが、コロナ禍のため機関誌の発刊へ変更した。また、地域包括支援センター等へ講師派遣事業を行った。</p>	<p>仙台オープン病院では、社会的に需要の高い専門医療をさらに強化し、救急医療においても、オープンシステムのもと救急搬送患者を積極的に受入れ、市内の二次救急医療に大きく貢献しているほか、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症にも、確実に対応したことは、大いに評価できる。茂庭台豊齢ホームにおいても、コロナ禍において入所者やスタッフに感染者を出さずに、地域住民の健康と福祉の増進に貢献できたことは評価できる。</p>
2. 業務・組織管理	<p>【病院】通常業務に加え、コロナ禍対応による業務編成や管理を行った。また、特定社会保険労務士の助言を受けて働き方改革を促進するとともに社会情勢にあった規程改定も行った。</p> <p>【茂庭】中期経営計画に基づき、健全経営に向けて超強化型又は在宅強化型を取得し、稼働率も維持した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症へ柔軟に対応している。経営面では中期経営計画を策定し、計画値と実績値の差異についても把握、分析し、改善に向けた取り組みが行われている。引き続き、健全経営に努められたい。コンプライアンス研修など、法令順守・不正防止体制の整備が着実に実行されており、継続して取り組まれたい。</p>
3. 財務状況	<p>【病院】新型コロナウイルス感染症拡大による医療機関のダメージは大きく、開業医からの紹介が主であるオープン病院は厳しい状況が続いたが、年度決算では赤字決算とはなったが職員の努力と「宮城県新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備費補助金」により赤字額は最小限に止まった。</p> <p>【茂庭】平成30年度の介護報酬改定時に、介護報酬の算定ポイントが最も高い「超強化型」の認定を取得するなど、事業収入増に努めているが、新型コロナウイルス感染拡大等により宮城県も緊急事態宣言又は、まん延防止等緊急措置の適用となり、各サービスの利用控え等もあり、当期経常増減額は赤字決算となった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、減収となった部分もあるが、手術・検査体制の維持等、スタッフの努力により最小限の影響としたことは評価できる。新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、引き続き中期経営計画の実現に努められたい。</p>
4. 今後の方向性及び課題	<p>【病院】令和3年度は第4次中期経営計画の初年度であり、3年間の期間内での目標達成に向けて、コロナ禍以前の患者数確保のために登録医との連携強化や新たな検査導入、健診事業の拡大、令和4年度の診療報酬改定等、また、感染症に対応すべく医療体制を整える。</p> <p>【茂庭】中期経営計画を基に、超強化型の継続的な取得と令和3年度介護報酬改定に伴い科学的介護情報システム（LIFE）導入を視野に入れ各種加算を取得する。また、コロナ禍における営業手段として各種セミナー・講座・懇親会等の開催が制限される中、機関誌等の発刊により、安定的な経営を行う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による減収はあるが、コロナ禍以前の患者数確保などを掲げた第4次中期経営計画を昨年11月に策定しており、計画に基づき健全経営に向けて取り組むとともに、仙台医療圏の地域医療・救急医療を担う病院として、住民から信頼される病院を目指されたい。茂庭台豊齢ホーム事業についても、引き続き稼働率向上に取り組むなどして、増収に努められたい。</p>